

2010年3月14日 総会議事録

書記 企画担当 三輪 眞言

1. 開催日時 場所

- ・ 13時30分から14時50分
- ・ 於武蔵野公会堂 3階会議室

2. 議事

- (1) 仁平会長挨拶 議長 小柴総務担当 書記に三輪企画担当が選出される。
- (2) 開会宣言 小柴総務担当 (以下議長と略す) より会則第12条より会員数149名
参加者30名 委任状59名 合計89名で過半数を上回り総会は成立。
- (3) 09年活動実績と10年度活動予定総会資料に則り麻生企画担当より報告・説明
→承認
- (4) 会誌発行 山田役員欠席のため中西役員より報告
- (5) メールングリスト HP 関連 倉地 IT 担当役員より報告 次年度以降データ集の発行を検討
- (6) 会計報告 2009年度予算 実績の報告 10年度予算の提案
セリ会の売り上げからの会への納入割合を20%から10%に変更する
→以上(4)(5)(6) 承認
(3) から(4) 総会資料参照
- (7) 会則の変更
入会条件の追加 会員用 HP 閲覧の追加 入会金の廃止の3項目につき承認された。
- (8) その他
入会申込書の用紙設定 入会申込書用紙を作成したので新入会員を紹介するときや入会申し込みがあった際は用紙に必要事項を記入。
- (9) 2チャンネル問題
 - a. 仁平会長より上記問題に対し以下の発言があった。
 - ・ 一昨年10月から及び昨年8月から公開掲示板「2ちゃんねる」に多摩虫の会員に関する書き込が行われた。
 - ・ 書き込みの中身は会員本人と一部の人しか知りえない情報で、且つ書き込みを行っている人物は独またはごく少数の限られた人物、さらには多摩虫の中核メンバーが含まれていると判断せざるを得ない。
 - ・ このような行為を放置した場合その他の会員以外にも被害(誹謗中傷・名誉棄損)が広がることも判断され、書き込んだと思われる人物を探索する場を持った。
 - ・ その時のメンバーが図らずも嫌疑をかけられたと感じ、役員間の間がギクシャクしたものとなった。

- ・現在被害者7名で「プロバイダ責任法」に則り法律事務所を通じ開示請求中で4月上旬には何らかのものが開示される見通し。個人のプライバシーの問題もあり開示請求の結果報告を踏まえたくて役員会として何らかの結論を出すのでそれまで待つてほしい。
- b. (仲西会員) 会を愛するものとして発言する。
今回の会のゴタゴタ (私から見るとそう見える) はどういうことなのか会長自ら説明してほしい他の人に任さず自ら回答してほしい。
- c. (仁平会長) 被害者代表から先ほども申し上げた通り4月上旬に回答がある旨聞いている。
- d. (仲西会員) 今何人もこのゴタゴタが嫌で (会を) やめようとしているのを止めている。いつまでにちゃんとした回答が出るのか。
- e. (仁平会長) この問題 (2ちゃんねる) はあやふやなことがあり、(プライバシー問題等) きちんとした結論はそう簡単には今のところでないところは理解してほしい。でも4月上旬には結論が出る由聞いている
- f. (議長) この問題の被害者代表としていろいろ動いていただいている麻生さんからこの時限の問題につき解答をお願いします。
- g. (麻生役員) 今法律事務所から然るべき手配をしています。
- h. (仲西会員) 何故犯人がそんなに解らない状態なのに犯人扱いする人物が出てしまったのか。また本当に4月までに書き込んだ本当に人物が確定できるのか。
- i. (須藤会員) この問題はメールにより多数の会員の周知することになっている。
早期に会としての結論を出して欲しい。
- j. (議長) 期限をきちんと区切った対応が必要。
→その後「2チャンネル」問題の経緯につき論議
- k. (宮崎役員) 議論を整理する必要があるのではないか。
- l. (議長) 本件はいずれにせよ4月末までに会としての結論を出す予定。
- m. (仲西会員) いずれにせよ会員が納得できる形で報告してもらいたい。
- n. 了承

以上

* 住所表記変更

岩野英俊 228-0817 相模原市南区御園 4-13-12

* 退会

三輪真言

* 柏倉美由喜さんから¥1000の寄付を頂きました。厚く御礼申し上げます。

* 新聞紙上より

「カマキリが高い所に卵を産むと大雪になる」との言い伝えを基に、新潟県長岡市の電気通信会社役員酒井与喜夫さん(74)が、40年にわたって冬の積雪を予測している。同県などの日本海側が、「暖冬、少雪」と予報されていた今冬も、年末から1月にかけての大雪を予知し、昨秋冊子にまとめていた。昆虫の専門家は「言い伝えに科学的根拠はない」とみるが、酒井さんの予測はよく当たるため、「カマキリ博士」と評判になっている。

新潟地方気象台によると、この冬の最深積雪量は、魚沼市入広瀬で275㎝、上越市安塚246㎝、新潟市81㎝。酒井さんの予想は、それぞれ267㎝、228㎝、33548㎝だった。酒井さんが積雪の予測を始めたのは、会社を興した1963年(昭和38年)。この

高い所に卵を産むと ↓



観測装置を取り付ける酒井さん
(新潟県長岡市で、酒井さん提供)

2010.3.16 読売(9)

「カマキリ予報 大雪」ピタリ

年は「三八豪雪」と呼ばれる大雪で、自社で扱うテレビアンテナが雪の重みで壊れるなどの被害が多発し、雪への備えの必要性を痛感したという。

その際、頭に浮かんだのが、子どもの頃から聞かされていた、カマキリの卵と降雪に関する言い伝え。数多くの卵を調べれば、予測が可能になるのではないかと考え、独自調査を始めた。

調査は、県内を中心に多い年は280か所、2800個以上に。卵の観察から「カマキリは、卵を産み付ける木を通じて、地球の水分量の変化を察知しているのでは」と思い立ち、地中から木に伝わる振動を自作の低周波測定器で調べた。以来、そのデータが積雪予測の基になっている。

酒井さんはこれらのデータを約25年前から冊子にまとめ、会社の取引先などに配布している。この冬の約250か所の積雪予想について、「ピタリ3割、誤差数が3割、外れが3割くらい」と話す。

過去25シーズンも、平均するとほぼ今冬と同程度の精度で予知してきたという。

一方、昆虫の専門家は、「言い伝えは偶然にすぎない」との見方で、京都大農学部藤崎憲治教授(昆虫生態学)は、「卵は雪に埋もれても死滅することはなく、むしろ孵化率は増す」としている。



こけしの 木くずで カブトムシ

福島・土湯温泉

こけし制作で出た木くずを、「カブトムシ繁殖所」にためる土湯伝統こけし工人組合のメンバー（福島市で）

江戸時代から続く「土湯こけし」で有名な福島市の土湯温泉。こけし制作の過程で出る木くずをカブトムシの繁殖に生かしたり、高温の源泉を暖房に使い始めたりと、様々なエコ活動が広がっている。

土湯温泉は、市街地から南西に約15分、吾妻・安達太良連峰の山懐にある。土湯こけしは、小ぶりな頭と細身の胴が特徴で、山桜などが材料になる。木くずはこれまでに焼却処分されてきたが、山や畑に捨てられてカブトムシの産卵場所になっていた時代もあった。

そんな昔の光景をヒントに「土湯伝統こけし工人組合」（職人9人）は2003年、5坪四方の枠に木くずや落ち葉を入れたカブトムシの繁殖所を作った。ここで出来た腐葉土は温泉街の花壇に使う。木くずの焼却がほぼ不要になり、ごみ

わが 2010.3.29 読

が減った。新年度から枠を二つから四つに増やし、月約1・8ト出る木くずをすべて活用する方針で、組合長の陳野原幸紀さん(62)は「観光客にプレゼントできるとくらいカブトムシが繁殖すれば、親子連れの客が増えるのでは」と期待する。

150度前後の蒸気が噴き出す源泉の暖房利用を始めたのは、各旅館でつくる「湯遊つちゆ温泉協同組合」。温泉水は約60度に調節した上で各旅館にパイプで供給されているが、旅館1軒と一般家庭5軒で、床やこたつの中に通した管にお湯を流して室内暖房にも使い始めた。今後、軒数を増やしていくという。

温泉街は4月1日に「エコ温泉地」を宣言する。新年度からは、「土湯女将会」が、真空パックに入れた県産のシャモや豚肉を、火を使わずに温泉水で加熱するメニューの

開発に乗り出す。観光客とごみを拾いながら湖沼を歩くエコハイキングの計画もある。土湯温泉観光協会事務局長の池田和也さん(52)は「温泉や自然の特徴を生かしたエコ活動を広め、観光客増につなげたい」と意気込んでいます。